

復活節
教説

彼らも記憶していた復活

<マタイによる福音書27:62~66>

張慶泰 牧師 (総会書記・船橋教会)



コロナパンデミックが始まり3年目になった。人類が一度も経験したことがなかった出来事に驚きながら、生き残る為の変化を試みた。学校と職場はオンライン授業とリモートワークという新たなスタイルに変わり、マスクと消毒は私たちの日常となり、ソーシャルディスタンスは既に身体に染みついてしまった。当然教会にもかなりの変化をもたらした。主日を守る概念が、以前は教会に来なければ主日を守ることが出来なかったという罪悪感となっていたが、現在は対面礼拝と非対面礼拝どちらにも参加することが出来るようになった。またコロナは多くの免罪符をもたらした。「コロナのせいだ」と言えば、多くのことが免罪に繋がった。コロナが信仰の免罪符とならないことを切に願う。

その一方で東京オリンピック、北京オリンピックが開催され、ウクライナでの戦争が始まった。このように激変する時代において、私たちは再び復活節を迎える。

1. 彼らも記憶していた復活

今日の本文では大祭司長とファリサイ派の人々がピラトと共に集まり、イエスが亡くなられた後の出来事に対して対策会議をしている。しかし考えてみれば、対策会議に何の意味があるのか？自分達がイエスを殺したのに！だとしたら、終わったのではないのか？しかし彼らにとってイエスが死んでも終わりではなかった。何故ならイエスが普段おっしゃっていた言葉があったからだ。だから彼らはピラトに「閣下、人を惑わすあの者がまだ生きていたとき、『自分は三日後に復活する』と言っていたのを、わたしたちは思い出しました。」(63)と言う。

彼らはピラトを「閣下」と呼び、イエスを「人を惑わすあの者」と呼んでいる。そして彼が復活すると言っていた事実を覚えていると言う。彼らもイエスが言った復活を記憶していた。そして彼らはきっと弟子たちが死体を盗んで、復活したと偽るであろうと思った。その為、兵士たちに墓を守るよう頼んでいた。

彼らは何故！イエスの復活が気になり、イエスを殺したのに彼の復活を記憶し、対策まで練っていたのか？

2. 弟子たちの記憶

しかし、弟子たちはどうだったか？イエスの復活に関して、誰も覚えていなかった。

復活なさったイエスに出会うまで、彼らは絶望の中にいた。そして、怖くて隠れ、故郷に帰り、まさか、と思い、トマスは「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」(ヨハネ20:25)とまで言った。弟子たちはイエスの復活に関して全く考えていなかった。これが現実であった。

私たちはイエスの復活に対してどれ程の信仰を持っており、またその信仰によって恐怖や苦痛の中でも勝利しながら生きているだろうか？

こんな例え話がある。ある教会は建物の3階にあったのだが、その2階は居酒屋だった。教会の礼拝の時間になると2階

では音楽を大音量で流し、特に金曜祈禱会ときにはマイクを使って大声で歌うので、3階では礼拝を進めることができず、毎週金曜日には2階が商売に失敗し店が潰れるように祈り続けた。しかしある日、本当に2階に火事が起こり、店が潰れてしまったという。そして2階の店主が、3階の人々が店が潰れるように祈り続けたという事実を知り、裁判所に訴えた。訴えられた教会は驚いた。そして裁判となり、裁判官が「2階が潰れるように祈り続けたというのは事実ですか？」と質問したところ、教会側は「何を言っているのか？祈ったからと言って本当にそんなことが起こると思うのか？」と答えた。それを聞いた裁判官は「神に対する信仰は、教会の人よりも居酒屋の店主のほうが強いようですね」と言った。

今日の本文で、大祭司長たちとファリサイ派の人々はイエス様の復活を覚えていた。しかし彼らのその記憶は、どうしても復活は嘘であるということを証明する為に、彼の弟子たちが死体を盗むであろうということに反応した。

マタイによる福音書8章に登場する百人隊長の話がある。自分の家来が中風病で横になっているとき、主を訪ねて治してほしいと言う。イエスはすぐに応え、すぐに行って治すとおっしゃったが、百人隊長はお言葉だけでも充分だと言った。イエスは、この百人隊長が見せた信仰に驚かれた。そして、「はっきり言っておく。イスラエルの中でさえ、私はこれほどの信仰を見たことがない。」と言い、12節でこんなことをおっしゃった。「この国の子らは外のやみに追い出され、そこで泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう」。結局信仰を現さなければならぬイスラエルはそれをできず、イエスが望んでおられた信仰は異邦人にあったことを私たちは知っている。

イエスが十字架で亡くられるときにも、イエスが神様の息子であったと告白した者も異邦人である百人隊長だった。

大祭司長たちとファリサイ派の人々がイエスの復活に対する記憶で、彼らが見せた反応は否定的な反応であった。弟子たちは復活の主に出会って、やっと「彼らに殺され、そして3日目によみがえるであろう」(マタイ17:20)とおっしゃっていたのを思い出した。そして弟子たちの人生は変わり、殉教するときまで伝道師としての人生を送った。

私たちは主の復活をどのように記憶しているだろうか？そしてその復活の主に対して、どのように反応しなければならぬだろうか？

今日のようにウクライナ戦争において、地震への恐怖において、人生で起こる数多くの失敗と挫折において、耐えることのできない恐怖の前で、私たちは主の復活をどのように記憶しなければならぬのか？

復活の主に出会ってからの記憶となってしまったが、復活の主に出会ってから全く違う人生を送った弟子たちのように、願わくは、私たち 在日大韓基督教会の全ての教会と、信徒たちが、新たな希望と勇気を持って生きていけることを、主の御名によって祈り祝福いたします。

関西聖書学院

2021年度卒業式」を挙行 本科、研究会併せて6名が卒業

2021年度関西聖書神学院卒業式が3月20日午後3時、本校舎(大阪北部教会)にて挙行された。今年も昨年に続き、世界的に伝染が拡大している新型コロナウイルスの影響のため卒業生と関係者を中心に集い、卒業式を挙行了した。

卒業礼拝は本神学院の教務である趙永哲牧師(大阪北部教会)の司会で始められ、教授の鄭然元牧師(大阪教会)が「キリストの良き働き人として」というメッセージを伝えた。その後、引き続き学院長金武士牧師による卒業証書授与式と関西地方会の副会長である朴栄子牧師(豊中第一復興教会)から祝辞



があった。最後に、本神学院の理事長である全聖三牧師(布施教会)の祝祷で卒業礼拝を終えた。

今年度に卒業した神学生は本科の卒業生として姜恩恵(大阪教会)、金昭延(大阪教会)2名、また研究会の卒業生として全珍相(大阪北部教会)、高栄玉(京都教会)、朴明順(大阪北部教会)、車有吾(京都教会)4名など計6名であった。彼らは本科と研究科を卒業し、それぞれ教会や社会において大きく用いられたいという抱負を語った。

関西聖書神学院は1984年に在日大韓基督教会で仕える人材養成、教会奉仕のための信徒教育と訓練、そして神学形成のため関西地方会を中心に設立され今日に至っている。

(報告：趙永哲牧師)

武庫川教会

朱瞰中名誉長老召天 西宮と武庫川教会で22年間長老奉仕



武庫川教会の朱瞰中名誉長老が、去る2022年3月14日、天に召された。86歳だった。故・朱瞰中長老は1935年12月、韓国に生まれ、来日したのち西宮教会に仕え、1984年に長老として将立された。

1992年からは武庫川教会に移籍し、長老として奉仕してきた。2006年に隠退、名誉

長老に推戴された。

5地方会の定期総会案内

<関東地方会 第73回 定期総会>

- ・日時：2022年5月3日(火) 13:00
- ・場所：在日本韓国YMCA、9階国際ホール
東京都千代田区神田猿楽町2-5-5、TEL 03-3233-0611

<中部地方会 第59回 定期総会>

- ・日時：2022年5月3日(火) 13:00
- ・場所：名古屋教会
名古屋市中村区名駅2-39-11、TEL 052-541-1980

<関西地方会 第73回 定期総会>

- ・日時：2022年5月5日(木) 10:00
- ・場所：大阪教会
大阪生野区中川西2-5-11、TEL 06-6712-3377

<西部地方会 第38回 定期総会>

- ・日時：2022年4月29日(金) 10:30
- ・場所：神戸教会
神戸市長田区梅ヶ香町1-2-20、TEL 078-682-3595

<西南地方会 第72回 定期総会>

- ・日時：2022年4月29日(月) 11:00
- ・場所：福岡教会 福岡市博多区千代5-11-48、TEL 092-641-9551

<2022年伝道主日献金>(2022年3月現在)

折尾教会	5,000円	名古屋教会	38,000円
東京中央教会	5,000円	品川教会	5,000円
東京教会	30,000円	横須賀教会	13,000円
新居浜グレース教会	3,000円	横浜教会	20,000円
三沢教会	10,000円	大阪教会	50,000円
長野教会	5,000円	武庫川教会	20,000円
広島教会	20,000円	合計	224,000円

講壇掛・ストール販売



在日大韓基督教会ではKCCJのロゴ入り講壇掛・ストールを制作・販売しています。価格は講壇掛・ストール共4色セットで各1万円(約半額) 講壇掛・ストール両方ご購入の場合は1万5千円です。※お求めは総会事務所へ

在日大韓基督教会 神戸教会

春の音楽伝道集会

2022年5月15日(主日) 午後2時開演

入場料：無料

トロンボーン奏者

亀井 玲司(かめい れいじ)

ピアノ奏者

高橋 玲子(たかはし れいこ)



YouTube同時配信



67年神戸生まれ。12歳でトロンボーンを始め、呉 信一、近藤孝司、大江 健司、ミッシェル・ベッケ、宗清 洋、横山 保男等の各氏に学ぶ。84年プロ活動開始。滋賀トロンボーン・フェスティバル大賞、中国音楽コンクール銀賞および神戸新聞社賞等々受賞歴多数。国内外にて年間約150回のコンサート、テレビ、ラジオにも出演。2019年4月には国際音楽協会と共に、台湾コンサートツアーを成功。文化庁および教育委員会より文化大使として各地に派遣される。ユーオーディア管弦楽団、アンサンブル・シオン各団員。

場所：在日大韓基督教会神戸教会

住所：神戸市長田区梅ヶ香町1-2-20

TEL/FAX：078-682-3595

西部地方会 壮年会共催

●●●全国教会女性連合会の思い出●●●

<長年の夢を引き継ぐ>

名古屋教会 金恩漢



働きながらの子育ても終わり、私が全国女性会に積極的に関わるようになったのは1990年ごろでした。当時の総務は徐貞順牧師任で、常に「女性の意識改革」を呼びかけていました。女性信徒が多いのに女性長老・牧師が少ない、意識改革には学びが必要だ…。「婦人会」から「女性会」に名称を変更し、多様な研修会を企画して私たちを楽しませ学ばせてくれました。

時代はさかのぼって、解放後。当時の婦人会が養老院を建てようと献金を集めていました。しかし、総会はKCC会館の建設を優先するようにと、女性たちの意思を受け入れませんでした。

時は流れましたがその夢を引き継いだ長老たち(芮戌龔長老、朴善姫長老)の呼び声に全国の女性たちは立ち上がり、「セツトンの家」建設事業が始まりました。

中部の全国女性会委員(鄭静子勸士、姜順明勸士、私)は、まず委員同士でまとまった金額を分担し、また、各教会に分担を呼びかけましたが、説得は容易ではありませんでした。しかし、一人一人が少額でも毎月誠実に納めてくださり、教会として分担金を満額支払うことができました。これは女性たちの長年の夢を「セツトンの家」として叶えてくださった神さまの御業です。

全国女性会を通じて、今も生きてはたらかれる神さまの御名をほめ讃え、感謝いたします。

<韓国3教団女性長老会との交わりの実>

小倉教会 金貞子



私が全国女性会の活動に参加したのは50代の中頃、やがて社会局長として奉仕する事となり、60代には財政局長、後に副会長、この間、特に韓国の教会女性連合会との連帯によって素晴らしい信仰の大先輩から受けた精神、一途の信仰とその行動力、祈りからくる他者への愛の実践、信仰の母、民族の母というキャッチフレーズの元、冷たくなりがちな日本にある教会へ愛のシャワーを恵みの雨のように身に受けました。

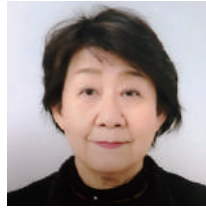
マグダラのマリアの信仰に倣い、弱者に向かって救済のシステムを韓国全土に起こしたナルドの壺運動、先駆者であられた羅宣貞長老の勤めは、イエスを慕う女性たちの信仰の証として受け入れたのは感動でありました。今後もその精神を信仰の証として続けて欲しいです。

また、特筆すべきは各教会の女性長老との出会いでした。当時、小倉教会は在日の人権問題を後世に残す為の資料センターを計画していましたが、崔昌華牧師亡き後、暗礁に乗り上げていました。この悩みを当時の女性教役者や女性長老であった鄭淑子牧師や羅宣貞長老に訴えた事がきっかけで、三教団の女性長老代表たちが九州に訪問され、現場を研修、ともに涙を流してくださいました。本国では結成する事が難しい三教団との第一回女性長老会が、その長崎で結成されました。その事が風を起し、募金活動が展開され、多額の寄付を頂きました。

こうして慰安婦問題、強制連行問題を学ぶ場として2007年西南KCC資料館が開設されました。この出会い、働きは全国女性会への奉仕によって成立しました。

<出会った交わりは私の宝>

福岡中央教会 金幸子



私は29年前に長老に立てられました。若手の女性長老誕生という事で名前が一人歩きし、役が次々に舞い込んできました。

全国女性会との最初の関りは、和歌山県白浜での研修会での証でした。そこでは、「セツトンの家」の議論が白熱していました。それからは確か琵琶湖での研修会で、開会礼拝の説教を頼まれました。教会学校の説教しか経験がなく、本当に鍛えられました。

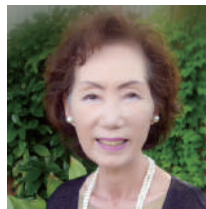
以後、宣教局、他委員を任せられ、西南女性会の会長にもなり、福岡から委員会のために大阪に何回通ったことか、今は鶴橋が懐かしいです。

当時のKCCJは牧師と長老から成っていて、総会での決議事項に女性の声が反映される事はほとんどありませんでした。全国女性会はそのために一生懸命に運動していた時期で、そういう中で私が長老として、その資格を持っているという事は何か針の筵に立たされているような気持ちでした。

委員の方たちは本当によく勉強され、女性も総会の総代として積極的に働く事ができるよう願っていました。ある時、「皆さんは保守的な教会事情で長老になれなかった方たちで残念です」と言う苦笑されました。現在は全国女性会より8名が総代として選出され、女性長老も増えてきました。思えば、長老として全国女性会で働けた事は主の祝福でした。そこで出会った交わりは私の宝です。その恵みを受けてほしく、今私は西南女性会を側面より応援しています。

<代表8名がKCCJ定期総会の総代に>

神戸教会 沈貞児



主の御名を崇め讃美申し上げます。2020年のコロナパンデミックにより生活が一変しましたが、感染防止をしつつ教会も対面礼拝、非対面、オンライン形式など状況に応じながらも、礼拝が回復傾向にあり感謝いたします。

私が全国女性会を振り返り一番大きな思い出は、2001年総会第46回定期総会時、8名の全国女性連合会代表が正代議員として総会に参加したことです。それは永年の信仰の先輩の働きと祈りによる新たな扉が開かれた瞬間でした。議決権をもつことは義務と責任を伴うことであり、またイエス・キリストの証人として共に、女性会、壮年会、青年会、信徒が総会を支え協力し教会が成長する事と思いました。

去年はコロナ禍の中でも第56回定期総会が開催でき多くの代議員が参加する中、女性会代表も各部に配属され共に担っているのは感謝な事です。またこの度、総会の総会長、副総会長が西部地方会より選出された事は大変嬉しく思います。

全国女性会も70周年が過ぎ世代交代の時期を迎え、時代の変化と共に、「もりもりフードパントリー」の活動を立ち上げ、神様の恵みの下、この活動を応援して下さる方々に感謝いたします。

どんな環境であっても私達には御言葉を宣べ伝える役目があります。福音の種を蒔き、未来に希望を与える全国女性会になる事を祈ると共に、各教会、地方会、総会においても次世代に向けて信仰の継承と教会の成長を願い祈ります。

<女性のための電話相談 セットンに加わり感謝>

大阪教会 林芳子



相談委員一同(前列一番右が林芳子長老)

全国女性会70年史の編集後記に、私は「30年前のある日、故朴善喜長老任が来社されました。40年史の依頼でした。入念に調べてびっしり書かれた手書きの原稿を持参されました。私が全国女性会と関わった最初のと

きでした……」と書いています。その頃は仕事が忙しく、教会に通うのがやっとでした。それから50年史、60年史、70年史制作に関わりながら、女性会の歴史や取り組みや活動などを知ることになりました。女性の視点で聖書を読むということに気づかされました。

2013年、視務長老を引退した後に電話相談局長に選ばれました。「女性のための電話相談セットン」は、全国女性会60周年記念事業として、2004年から開始し2019年まで運営されました。それまではただ当番をしているだけでしたが、局長になって役不足を痛感しました。毎週土曜日の電話相談事業、毎月開催する相談員養成講座、公開講座のスケジュールやテーマ・カリキュラム・講師などを局会で相談しながら決めました。何より神様に感謝することは、総務をはじめ役員・局員・相談員たちが、いつも真摯に共に取り組んで協力してくださったことです。私にとっても貴重な学びになり恵みの時でした。セットン電話相談は終了しましたが、その後「もりもりフードパントリー」へ繋がる大きな働きであったと思います。

KCCJ・CCJ宣教協力委員会の公開講演会(2021年12月9日)

公開講演
連載2

和解の主にいざなわれ、罪責をになって(2)

吉高 叶 牧師(日本NCC議長/日本バプテスト連盟市川八幡キリスト教会牧師)

2. 東アジアの平和と和解を阻むもの

日本の教会が、罪責を捉えるにしても、また平和や和解の福音に仕えるということを考える上でも、避けて通ることのできないものが、「東アジア」という地政学的、歴史的な文脈です。また、日・韓・在日の教会が、戦争責任の深部に届き、和解の福音を追求していこうとするときに、常に壁になってきた日本に横たわる精神性を理解しようとするならば、「天皇制」という論理と向き合わねばなりません。

私たち2021年を生きる「日本」は、国際政治的に言うならば米中対立、中国と台湾の緊張関係、そして北朝鮮と韓国の分断状況を抱えた「東アジアの緊張と危機」という文脈を生きています。第二次世界大戦後、この東アジアを決定づけ、固定してきた「戦後レジーム(体制)」は、「朝鮮半島38度線の分断状況」と「サンフランシスコ講和条約」という二つのレジームでした。

このレジーム誕生の根底には、日本の「天皇制」が横たわっています。天皇の名によってアジア諸国で侵略戦争を引き起こし、東アジアに「大東亜共栄圏」を打ち立てようとした戦争が、1945年敗戦を迎え、朝鮮半島では日本軍の武装解除を名目として、「38度線」を境とした南北分断が起こされていきました。

ヨーロッパでファシズム戦争を引き起こしたドイツに対して、国際社会はドイツを東西に分割し、さらにベルリンを東ベルリンと西ベルリンに分割するという形で、ドイツが二度と野望を抱くことがないようにしました。しかし日本の場合、戦争責任の清算は日本列島の分断ではなく、「朝鮮半島が分断される」という悲劇が朝鮮半島の人々にあてがわれたのです。日本の戦争責任を、朝鮮半島では民族分断という形で背負わされ、さらには悲劇的な朝鮮戦争へと転じさせられていったのです。

いっぽう日本においては、一貫して「国体の維持」「天皇制の護持」が画策されました。そして1952年、サンフランシスコ講和条約によって沖縄を切り捨て、米国に軍事基地として差し出すことで、天皇制国家としての日本の「国体」を維持させたのです。

その後、沖縄が本土復帰を果たしたにもかかわらず、東アジアにおける米軍支配レジームの要としての沖縄の意味づけは、変更されることなく今日に至っています。つまり、「戦場としての朝鮮半島」と「基地としての沖縄」、言い換えれば「38度線の分断の固定化」と「沖縄基地の固定化」は、米国による極東の「一大軍事フォーメーション」として維持強化され、近年はそのレジームが「米国の対中政策」にスライドし、膨張・拡

大されています。

忘れてならないのは、そうした「東アジアの戦後レジーム」の根底には、「天皇が軍人でなければならなかった時代」と、「天皇家がソフトであることが意味を持つ時代」が、じつは同じレジームの中でつながら、その役割を絶妙に果たし続けていることです。

また、在日外国人を使い捨てにする「冷酷さ」と、天皇制に親しむ「睦まじさ」は、未だに密接に関連しています。先ほどウィシュマ・サンダマリさんの話をしましたが、非人道的な現行入管法は、日本がかつて朝鮮半島を侵略し、強制連行や強制労働に多くの人々を駆り立て支配した時の外国人政策の考え方が、そのまま戦後も持ち込まれて残存されている法制度だということです。戦争責任を清算することなく残存している「外国人理解(人間理解、これは同様に戦争責任を負うことなく残存した天皇制と「対をなしている人間理解」なのです。

いま日本社会は、いびつなハラスメント社会であり、ヘイトスピーチが蔓延する社会となりました。その背後に、経済衰退の焦り、アジアの盟主としての誇りの挫折などから来る怒りの感情、非正規雇用の拡大、収入の減退、格差社会の結果「総下流社会」という実態を押しつけられた人々の怨嗟(ルサンチマン)が満ち満ちています。歴史教育や、隣人との出会いの経験から切り離されて育った多くの人々が、きわめて単純に「嫌韓」に走り、徴用工問題、慰安婦問題に対して憤慨していきます。北朝鮮を侮蔑し、中国を敵視する、東アジア近隣国への敵意をむき出しにしながら、これらの負の感情と表裏一体をなすようにして、「親和性のある天皇」が人々の中に浸透しています。敵意、暴力的な思考性と、ソフトな天皇制は、このようにして共存していくのです。

日本は、今般(2021年10月)の衆議院選挙の結果、新たな「改憲ステージ」となりました。改憲勢力が改めて2/3を超え、岸田首相は所信表明演説の中で、第二次安倍政権が2013年に策定した中長期指針「国家安全保障戦略」の改定を1年以内に行なうと表明し、弾道ミサイルを相手国領域内で阻止する敵基地攻撃能力の保有も含め、「あらゆる選択肢を排除せず検討する」と強調したのです。

そのような危機的な時代を迎え、私たちは精一杯、戦争への道にブレーキをかけなければなりません。その際、私は「平和のいましめ」を心に刻みたい、と改めて感じさせられています。⇒続く

